

2023年度 酪総研シンポジウム

共創 その先へ

～地域丸ごとと農場計画～

岡山県津山市

一般社団法人 LAアライアンス

代表理事 永禮 淳一



Topics

- 01 永禮牧場ってどんなところ？
- 02 なぜ自給粗飼料を？
- 03 自給粗飼料を増やしたいのに……
- 04 LAアライアンスの設立
- 05 今後に向けて

Topics

01 永禮牧場ってどんなところ？

02 なぜ自給粗飼料を？

03 自給粗飼料を増やしたいのに……

04 LAアライアンスの設立

05 今後に向けて

永禮牧場ってどんなところ？

◇ 形態

40頭繋ぎ+30頭フリーバーン

TMRで1群管理

(イタリアンサイレージ12~15kg/日)

◇ 作業

家族

(母・妻・本人・従業員)



永禮牧場ってどんなところ？

◇ 津山市

水田地帯

中途半端な中山間地域

▷ **自給飼料に向いていない**



Topics

01 永禮牧場ってどんなところ？

02 なぜ自給粗飼料を？

03 自給粗飼料を増やしたいのに……

04 LAアライアンスの設立

05 今後に向けて

なぜ自給飼料を？

2002年まで購入粗飼料のみで経営

◇ 堆肥処理

- ・50aの自家草地に還元
- ・堆肥販売で得た収入で飼料を購入



なぜ自給飼料を？

自給飼料の手伝いへ

『お金がないから自給粗飼料を作る』



▷ 計12haを譲り受ける

購入粗飼料のみで経営

2002年

稲WCSの試験給与

(稲WCSロール体系の初期段階)

稲WCSが経費削減になるかも？

▷ 作りたいが、土地と機械がない

本当に必要か？

リーマンショック

▷ 輸入乾草の高騰

自給粗飼料の拡大へ

2008年

なぜ自給粗飼料を？

自給粗飼料拡大に向けて

- ・草地面積の増加
- ・機械の更新

▽

順調!! 順調!!!



▽

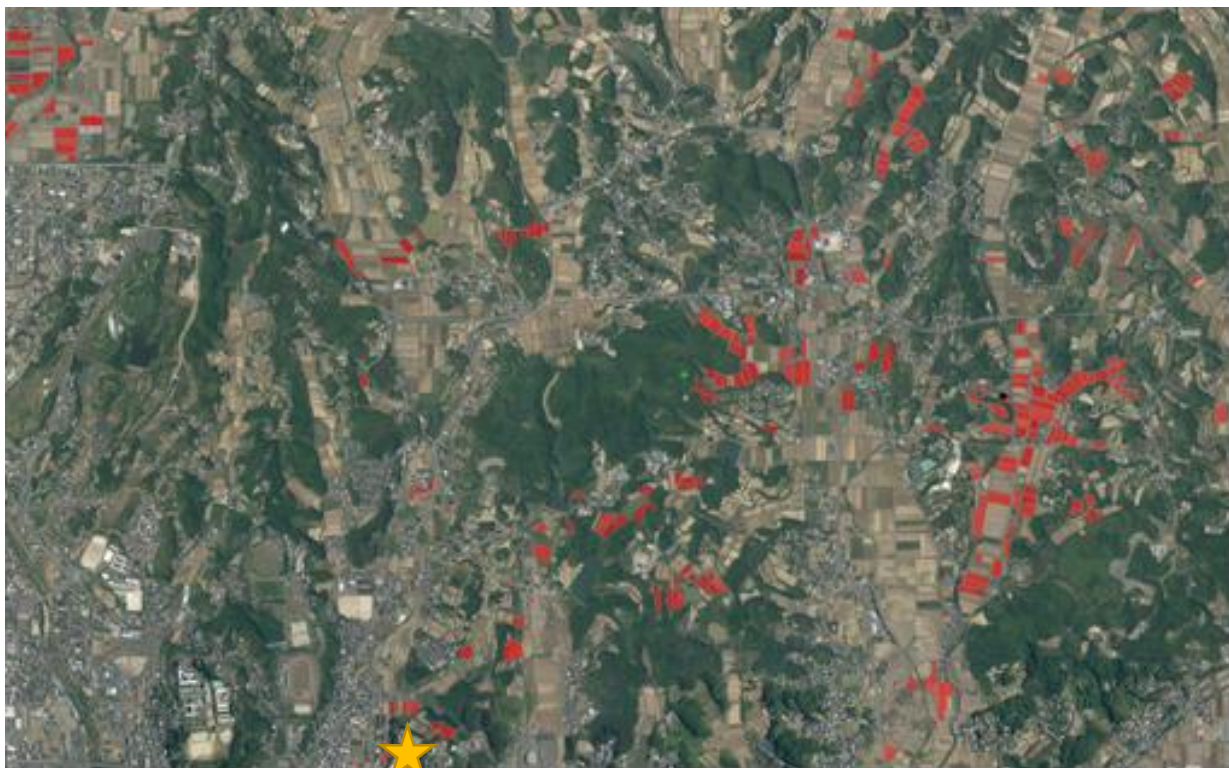
すぐに**家族経営の限界**が...



Topics

- 01 永禮牧場ってどんなところ？
- 02 なぜ自給粗飼料を？
- 03 自給粗飼料を増やしたいのに……**
- 04 LAアライアンスの設立
- 05 今後に向けて

自給粗飼料を増やしたいのに……



★牛舎

- ・圃場が点在
- ・中山間地で面積が狭い



青年活動への参加

耕種農家・果樹農家と共通した課題があることが分かった

Topics

- 01 永禮牧場ってどんなところ？
- 02 なぜ自給粗飼料を？
- 03 自給粗飼料を増やしたいのに……
- 04 LAアライアンスの設立**
- 05 今後に向けて

LAアライアンスの設立



一般社団法人 LA アライアンス



◇ LAアライアンス設立の背景

農業の未来は自分たちで創り上げていかなければならない

- ・技術があっても農政や地域に精通した担い手がいない
- ・家族経営への不安
- ・大規模営農による社会的責任の重さ
- ・地域の人口減少による農村インフラ維持に関する危機意識
- ・土地利用型農業は地域農業を維持



行政は労働集約型の高収入作物を推進

◇ LAアライアンスとは

地域農業の持続的発展を願い、様々な課題を掘り起こし解決するプロの農家団体

◇ LAアライアンスの考え方

農業は地域を守る基幹産業かつ農村での**生活と切り離せないもの**
課題の解決に向けて様々な角度から問題を分析、時代に合わせた柔軟な姿勢で対応

◇ LAアライアンスの取組状況

・主たる構成員 **6**名 (主な作目: 水稻、果樹、酪農)

・作付面積 **20** ▶ **110** ha (法人分) + 各構成員

・飼料作物作付面積 (夏・表作) 稲WCS **18.9** ha 牧草 **18.6** ha

◇ LAアライアンスの簡単な組織図



国会議員の先生と意見交換会



食育イベント



先進地視察 福井県小浜市 (株)若狭の恵



高倉地域づくりの会 農地についての話し合



「農業は土を耕すだけではなく、地域を耕さなければ継続できない」と米井さん

耕作放棄地開墾 先進技術を活用

岡山県津山市「高倉地域づくりの会」

【岡山支局】津山市高倉の地域づくり団体「高倉地域づくりの会」では、耕作放棄地を効率的に解消するための実証実験に取り組み成果を上げている。先ごろ開催されたデモンストレーションでは、地元の手芸農家団体「一般社団法人しんアライアンス」、農業機械輸入販売業者「日本ニューホランド株式会社」、株式会社ヒコシヤパンと協力し、先進技術を活用して耕作放棄地を開墾した。

立ち木・竹やぶ一掃

効率的な手段で課題解決へ



農地一面を覆うササを一度の往復で破砕



繁茂した竹やササを短時間で一掃した

同地域は、高齢化や離農で耕作放棄地が増加傾向にあり、繁茂した雑草や竹が野生鳥獣の隠れみのとなり、獣害増加の要因にもなっている。同会はこれらを地域課題とし、課題解決のため検討を進めてきた。

農地にブッシュマルチャ（TMC CANCEL）を使用し、雑草や竹、ササを破砕。このマルチャは、立ち木や竹やぶを一度の往復で破砕し、農地の表面を一掃する。その後はサブソイラーで土中の固い部分の破砕や、パワーハロ

で農地の表層を砕土・均平する様子を披露。3時間

をそのまま粉砕し、農地の表面を一掃する。その後はサブソイラーで土中の固い部分の破砕や、パワーハロで農地の表層を砕土・均平する様子を披露。3時間ほどで農地全体が整地され、大型作業機を使用する有効性を示した。

一方、大型作業機が進入できない耕作放棄地が多くあるため、そういった農地への対策も今後の課題だ。地域全体で行動を高倉地域づくりの会とし、Aアライアンスの両方に所属する米井崇徳さん38は「耕作放棄地を人の手で解消しようとした場合、膨大な作業時間がかかるため、どうしても限界がある。高齢化が進み人口が減少している地域では、効率的に維持できる方法を考えなければならぬ」と指摘する。

さらに「今回は地域課題を前向きに検討し、たくさんの方が協力してくれた結果、こんなに大きなことが実現できた。耕作放棄地解消の取り組みはその足がかりに過ぎず、農地をはじめ地域を次の世代に引き継ぐためには、課題を放置せず、地域全体で検討し行動することが必要。また多くの課題があるが、一つずつ行動に移し解決していきたい」と話す。

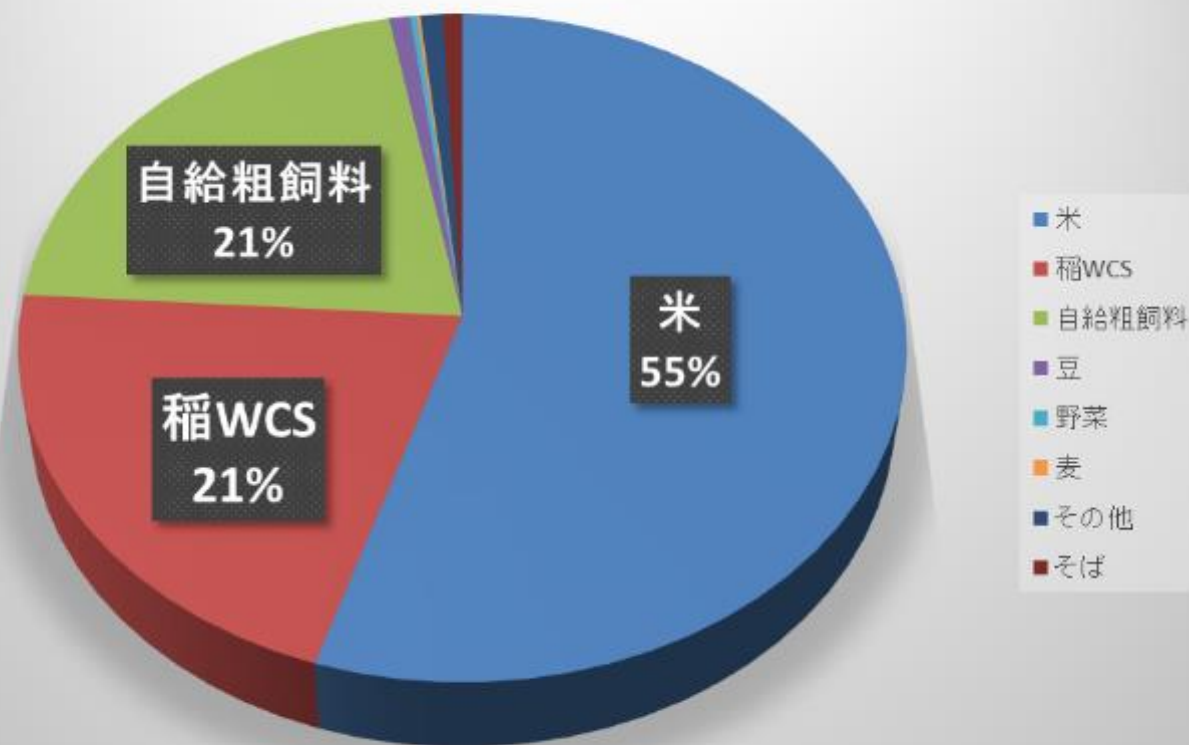
（横部）

◇ 作付け面積割合

稲WCSと自給粗飼料の合計は

2番目の割合 **37.8**ha

品目別作付面積の割合



品目	面積(ha)
総面積	111.8
米	49.2
稲WCS	18.9
自給粗飼料	18.9
豆	0.8
野菜	0.3
麦	0.1
その他	0.8
そば	0.7

8品目以上
(飼料用米含む)

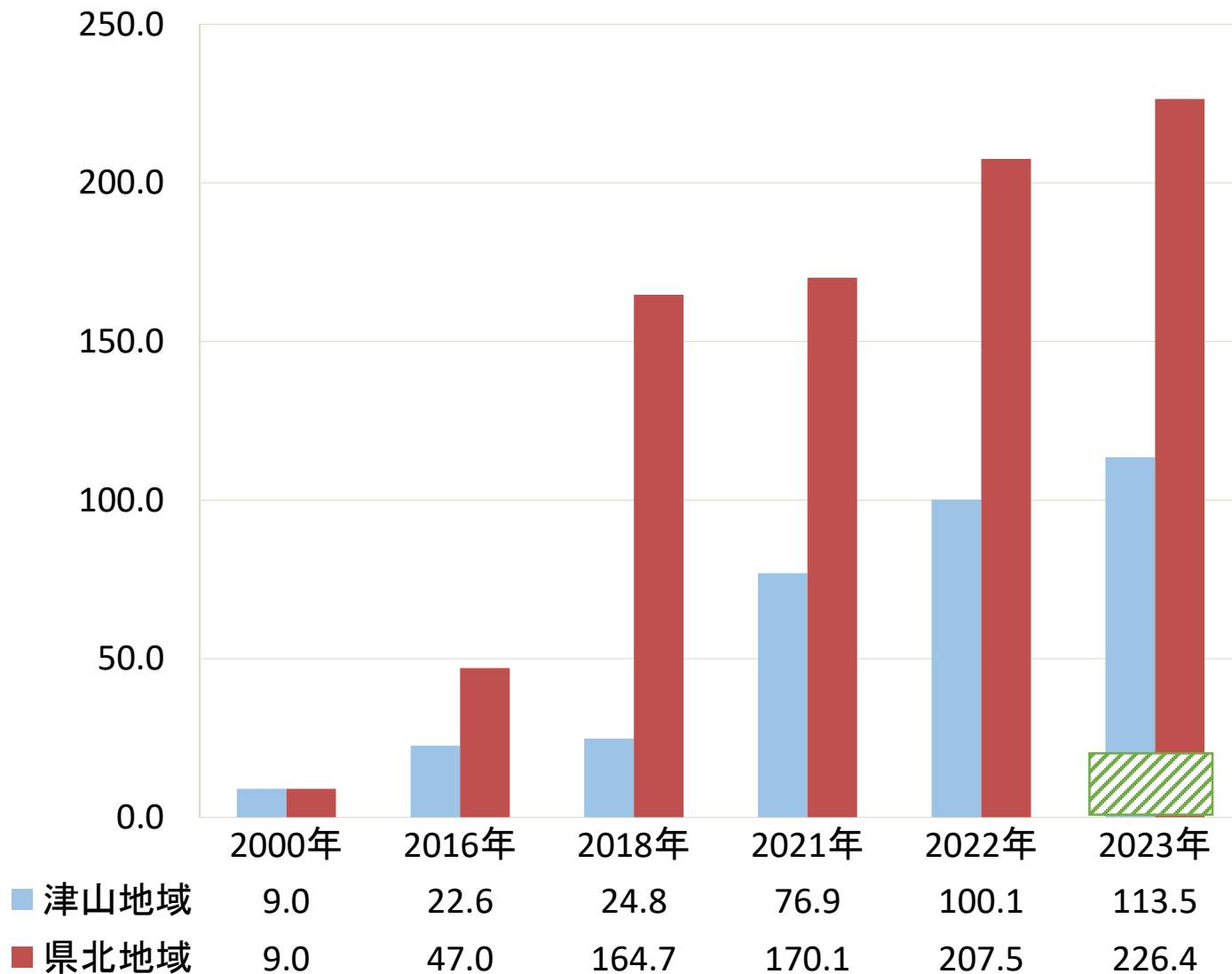
15品目(多)

圃場数 **789** 筆

地権者数 **268** 人

平均圃場面積 **15** a

◇ 津山と岡山県北の稲WCSの作付け面積の推移



津山地域の2割弱
岡山県北地域の1割弱



LAアライアンス **18.9**ha

◇ 全圃場の一部

★ 牛舎

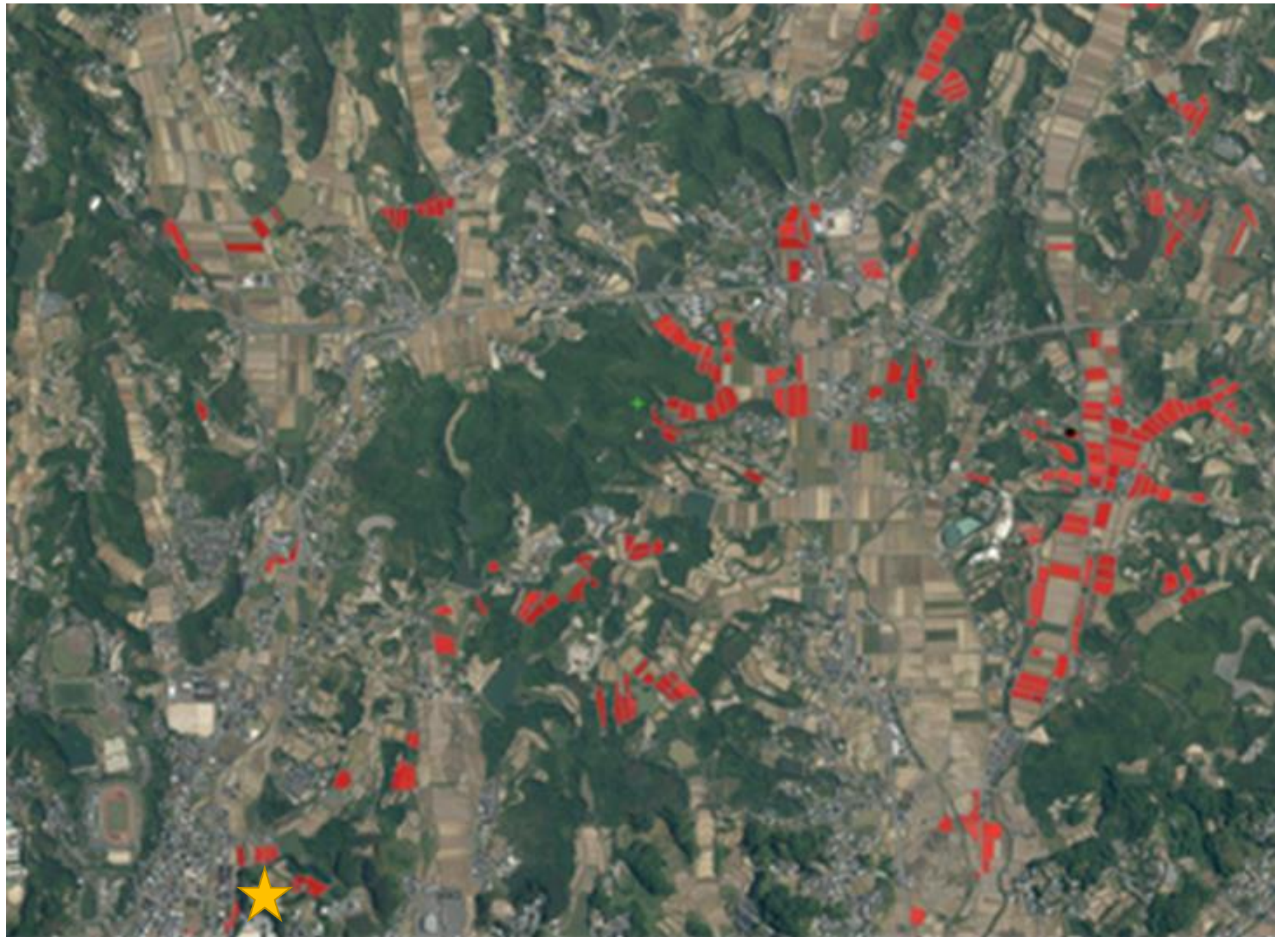
■ 圃場

圃場が点在

圃場数 789筆

地権者数 268人

平均圃場面積 15a



- ◇ 農閑期の人材の有効活用
- ◇ 耕種農家への作付け依頼



『畜産農家は、堆肥の供給だけでなく、牛の飼料作付けで面積を使うことができ、一定の収入確保ができるため、耕種農家にとっても、なくてはならない存在である』

Topics

- 01 永禮牧場ってどんなところ？
- 02 なぜ自給粗飼料を？
- 03 自給粗飼料を増やしたいのに……
- 04 LAアライアンスの設立
- 05 今後に向けて**

今後に向けて



- ◇ 輸入乾草に頼らない体系づくり
- ◇ 適地適作▷水稲
- ◇ 交換分合による農地集積、TMRセンター化へ
- ◇ LAアライアンスの課題の解決
 - ▷担い手不足 ▷新規就農者対策 ▷労働力確保
 - ▷効率的な農業経営 ▷地域資源管理 ▷補助金頼りの農業
 - ▷多すぎる地権者 ▷食育 ▷地域との連携 ▷再生可能エネルギーと農業

Daily Japan

2022年12月号

2024年 1月号

もご覧ください



ご清聴ありがとうございました

